

# 花

新潟大学の魅力と現在を発信

新潟大学季刊広報誌 [RIKKA]

2026.SPRING



No. 56

授業紹介 -教育の現場-

Enjoy! 学生ライフ

注目される研究報告

活躍する卒業生紹介“学びの先”

教員によるコラム

“知見と生活のあいだ”

基金関係のお知らせ

Campus Information

特集2  
グローバル社会を牽引する  
”博士イノベーター”の養成

特集1 第17代学長 染矢俊幸学長就任  
ライフ・イノベーションで  
人と社会の未来を  
切り拓く  
〜構想フェーズから実装フェーズへ〜



Cover Photo

大学が先導し、地元企業や自治体に参加する共創IPの一つである「おいしDX共創IP」。研究室では、大学院生らが食を取り巻く様々なデータ分析をしていた

# CONTENTS

- 03 特集 **第17代学長 染矢俊幸学長就任**  
**ライフ・イノベーションで**  
**人と社会の未来を切り拓く**  
— 構想フェーズから実装フェーズへ —
- 04 特集 **グローバル社会を牽引する**  
**“博士イノベーター”の養成**
- 08 **授業紹介** — 教育の現場 —
- 09 **Enjoy! 学生ライフ**
- 10 **注目される研究報告**
- 12 **活躍する卒業生紹介“学びの先”**
- 13 **教員によるコラム“知見と生活のあいだ”**
- 14 **基金関係のお知らせ**
- 16 **Campus Information**

『六花』とは…

本誌のタイトルでもある『六花』とは、本学の校章のモチーフである“雪の結晶”を表す言葉。本学の校章は、シンボルマークであった学生章をモチーフに本学名誉教授 小磯 稔氏がデザイン化したものです。

**題字**  
野中浩俊(のなか ひろとし)氏  
新潟大学名誉教授(教育人間科学部)。専門は、書道・富岡鉄斎研究。現在は、新潟市会津八一記念館館長

新潟大学SNS公式アカウント

- @Niigata\_Univ\_0
- @niigata\_university
- @niigata.univ

## 2026年2月1日新学長就任に伴う役員紹介

学長 <b>染矢 俊幸</b> (そめや としゆき)	理事 [社会連携・経営戦略 担当] <b>川端 和重</b> (かわばた かずしげ)	理事 [評価・教員組織 担当] <b>澤村 明</b> (さわむら あきら)	理事 [教育・グローバル推進 担当] <b>大鳥 範和</b> (おおとり のりかず)	理事 [研究 担当] <b>小野寺 理</b> (おののら おさむ)	理事 [広報・ダイバーシティ推進 担当] <b>住吉 智子</b> (すみよし ともこ)	理事 [総務・財務・施設 担当] <b>藤澤 亘</b> (ふじさわ わたる) *2026年4月1日より

# 特集 第17代学長 染矢俊幸学長就任

## ライフ・イノベーションで

### 人と社会の未来を切り拓く

### — 構想フェーズから実装フェーズへ —

2026年2月1日、染矢俊幸新学長が就任。新執行部による新潟大学の歴史がスタートした。地域社会、そして国際社会において、新潟大学が果たすべき役割とは

#### 総合知の創出 構想から実装へ

現代社会は少子高齢化や環境問題など、複雑に絡み合う課題を抱えています。こうした中、大学は単なる教育・研究の場にとどまらず、学問と実践を通じた知の力で、人と社会の未来を切り拓いていく役割が求められています。2021年に策定した将来ビジョン2030で掲げた「ライフ・イノベーションのフロントランナーとなる」を受け継ぎ、理念や構想にとどまらず、その成果を社会に生かす「実装」へと歩みを進めています。生命、生活、人生、そしてそれらを支える環境を一体として捉える総合知の創出は、その中核をなす取組です。

#### 研究は 社会への責任

新潟大学の使命は、地域に根ざして課題に向き合うと同時に、世界に開かれた大学として地域の知を普遍的な価値へと高めることです。150年以上の歴史と「自律と創生」の理念の下、分野を越えて新たな価値を生み出す改革を進めています。これらの大学機能のすべての基盤となるのが「研究」です。研究者が自由に探究できる環境を守ることは、教育の質を支える根幹でもあります。さらに、研究で生まれた知を教育に還元し、育った人材が社会で活躍し、現場の課題が再び研究に戻るといふ「知の循環」を目指します。本学は現在、研究大学群の一角として研究力強化を担う大学(J-PEAKS事業・全国25大学)と、博士人材を戦略的に育成する大学院教育拠点(FLAG事業：全国で6大学)に相次いで選定される大きな転換期にあります。

#### 人への投資が 未来を支える力に

研究や教育の成果を確実に社会実装するため、研究者に加え、専門性を持つU A職(ユニバーシティ・アドミニストレーター)や事務職員が協働する体制づくりが進んでおり、大学は地域と共に課題を解決するパートナーとして歩みます。そして、これらの取組を支える最大の力は「人」への投資です。若手研究者や多様な人材が挑戦できる環境と、学生が主体的に学べる教育を大切にします。さらに大学運営においては、「対話と信頼、データに基づく「見える運営」」を基本に据えます。新潟大学は、地域と世界をつなぎ、知を創り、人を育て、その成果を社会に生かすことで、「ライフ・イノベーションで人と社会の未来を切り拓く」挑戦を学内の皆さんと共に前へ進めていきます。



新潟大学長  
**染矢俊幸**(そめや としゆき)  
医学博士。1983年東京大学医学部医学科卒業、1990年医学博士(滋賀医科大学)、1998年新潟大学医学部教授。2018年から医歯学系長、医学部長を歴任。2024年より理事(グローバル推進担当)・副学長。2026年2月1日より新潟大学長。  
趣味:ゴルフ、カラオケ  
座右の銘:努力と工夫



# グローバル社会を牽引する “博士イノベーター”の養成



新潟大学が採択された、文部科学省の令和7年度「未来を先導する世界トップレベル大学院教育拠点創出事業(FLAGS)」。

同事業で新潟大学は、10年後の大学院のビジョンとして、高度な専門性と文理融合・分野横断の学際的環境のもと、「総合知」を創出する教育と社会共創事業、産学連携の場を活用した実践型大学院教育によって、複合的課題を解決できる「博士イノベーター」を養成。大学院教育拠点を形成し、博士の学位取得者の増加を図る。事業のビジョンやそれを実現するための戦略、取組内容を紹介します。

## 事業採択の背景と 博士教育の現状

FLAGS(フラッグス)とは、文部科学省の令和7年度「未来を先導する世界トップレベルの大学院教育拠点創出事業」の略称。

新潟大学は「グローバル社会を牽引する博士イノベーター育成大学院拠点」という事業名で同事業の総合型に採択された。本事業を通じて、徹底した国際拠点形成と産学連携教育による大学院の抜本的な改革、博士教育の強化を進めていく。分野を越え、社会と共に課題を定義し、その解決を主導できる人材を育てることは、これからの大学に不可欠な使命。新潟大学は学問の枠を越えて人と社



画像引用:新潟大学FLAGS Webサイト(https://www.niigata-u.ac.jp/flags-jp/)より

会に寄り添い、未来を切り拓く知を創出し、その成果を社会の中に着実に実装していく。担当の末吉邦特命理事と本田明治副学長に聞いた。



副学長(大学院担当) 本田 明治

「国がFLAGS事業を推進する背景には、日本の社会や大学が抱える課題があります。まずは、日本における博士号取得者の伸び悩みです。米国、英国、韓国などの諸外国では人口100万人当たりの博士号取得者数が大きく増加しているのに対し、日本は過去20年ほど横ばいで推移しており、国際的な競争力の維持・向上のために高度な博士人材の育成が不可欠です」(末吉)

次に、社会課題の複雑化と「総合知」の必要性だ。気候変動や食料問題といったグローバルな課題に加え、日本では超高齢化、地方からの人口流出、産業競争力の低下といった課題

が山積している。これらの複雑化した課題は単一の「専門知」だけでは解決が難しく、文理の壁を超えた「総合知」を持つ人材が求められている。

さらに、産業界のニーズと日本社会の認識のズレがある。グローバルに展開する企業では博士号の取得が重視されているが、日本社会では未だに「博士リアカデミア(研究者)」という認識が根強く、社会側が博士人材の活かし方を十分に理解していない。このようなキャリアの不透明さや、経済的な不安、周囲の就職への同調などから、日本では修士課程から博士課程への進学率が低い状況にある。



特命理事(FLAGs担当) 末吉 邦

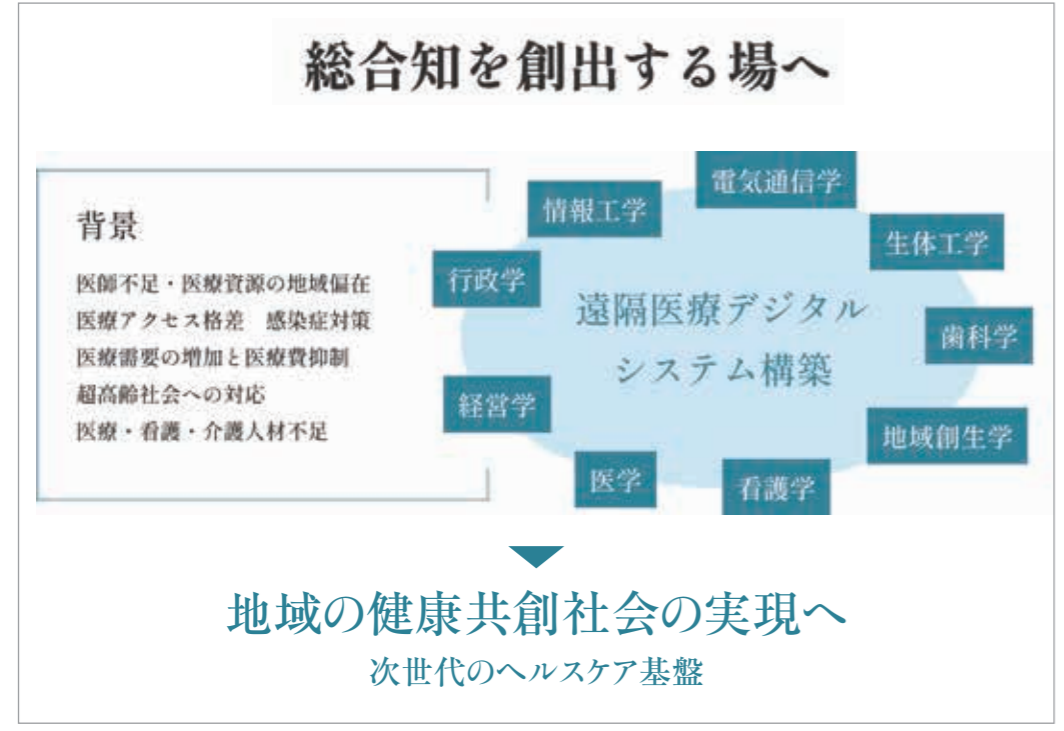
「新潟大学においても、博士課程の定員充足率が上がらず、厳しい状況が続いていたという課題がありました。しかし、2020年度にPhDリクルート室を設置し、博士課程の学生を産業

## 複雑化する社会課題の解決には 文理の壁を超えた「総合知」を 持つ人材が求められている

界へ送り出す支援に力を注いできたことで、状況は徐々に変化しています。2022年度には大学院教育支援機構を立ち上げ、全学を挙げて大学院教育を強化する体制を整えました。こうした一連の流れを経て、2026年度からは新しい総合学術研究科がスタートします。今回のFLAGSの事業採択は、これまでの改革の積み重ねがあったからこそ実現したもの。また、研究力強化プロジェクトである「PEASへの採択も追い風となりました。大学院生、特に博士課程の学生を増やすことは、本学が研究大学として成長するために不可欠な要素となっています」(末吉)

## 10年後のビジョンと 「博士イノベーター」 の育成

新潟大学の大学院は、FLAGS事業を通して、10年後のビジョンとして「グローバルとローカルが融合する未来社会の創生」を掲げた。その中核となるのは、「博



画像引用:新潟大学FLAGS Webサイト(https://www.niigata-u.ac.jp/flags-jp/)より

# 専門力を異なる分野へ 応用できる力が イノベーションを起こす源泉に

3つ目は優秀な学生の獲得と社会活躍の徹底だ。「PhDリクルート室」などを通じて、学生のキャリアパスを支援する他、研究奨励金による経済的支援や、最短期で学部から修士まで5年、博士まで7年で修了できる「短期修了制度」などを導入し、

## 地域・世界に 多様な支援と キャリアパスを展開

このような地域と大学の組織型共創プロジェクトで蓄積したノウハウは、国際拠点である国際共同運用ラボにも展開。ローカルな課題解決の経験をグローバル社会へ実装する「グローバルイノベーション実践教育」へと繋げていく。

このような徹底した産学連携教育を通じて、新潟大学は学生に社会の現場で実践的な経験を積み機会を提供し、真の「総合知」と「実践力」を備えた博士イノベーターを育成する。10

## 研究大学としての 決意と未来への展望

これらの戦略を持続可能なものにするため、新たに配置されたのが高度専門人材職のUA(ユニバーシティ・アドミニストレーター)だ。UAは、研究・教育・イノベーションを経営的な観点で推進し、企業ニーズとのマッチングや外部資金の獲得、事業プロセスの管理などを担う。産学連携による収益化を通じて、FLAGS事業の自立・自走化を目指している。

## 新たな専門人材に よるサポート体制

意欲ある学生の獲得を目指す。「海外から来た留学生が日本で博士号を取得し、そのまま日本で起業したり企業に勤めたりして定着してもらうことも目指しています。食や環境といったトップレベルの資源がある新潟を学問の拠点にすることで、若い研究者たちが『新潟にいたい』と思える環境を構築していきたいと考えています」(本田)

「かつての博士は、専門性をそのまま活かすことが主流でしたが、これからは専門力を異なる分野へ応用できる力が重要になります。これこそがイノベーションを起こす源泉です。特に新潟大学としては、地域でリーダーとして活躍できる博士人材を一定数輩出していきたいと考えています。博士人材が地域に残り、リーダーとして課題を解決していく姿を見せることができれば、『新潟ロールモデル』として全国に展開できるはずですよ」(本田)

## 新潟の強みを活かした オリジナルプログラム

新潟大学は、博士イノベーターを育成・輩出するために、以下の3つの戦略を挙げた。

「博士イノベーターは、アカデミアの世界に留まらず、企業、自治体、国際機関など、地域や世界のあらゆる舞台で変化を起こせる人材のこと。アントレプレナーシップを持ち、総合知と実践力、社会活躍経験を備えていることが要件だと考えています」(末吉)

1つ目は、高度な「総合知」を涵養する学際教育の推進だ。2026年度に人文社会科学系と自然科学系の研究科を統合し、文理融合・学際型へと大学院を改組。新設される総合学術研究科では、新潟の強みを活かしたオリジナルのプログラムを立ち上げている。「日本酒学」や「フィールド科学」、「アニメ・映像資源学」、「ひと脳・健康科学」などは新潟大学にしかない特色ある分野だ。

## ローカルでの課題解決を グローバルな社会実装へ

2つ目は、グローバル共創の現場を活用した実践教育だ。大学内にとどまらず、地元企業や自治体と連携した組織型の地域連携プロジェクト(共創IP)や、

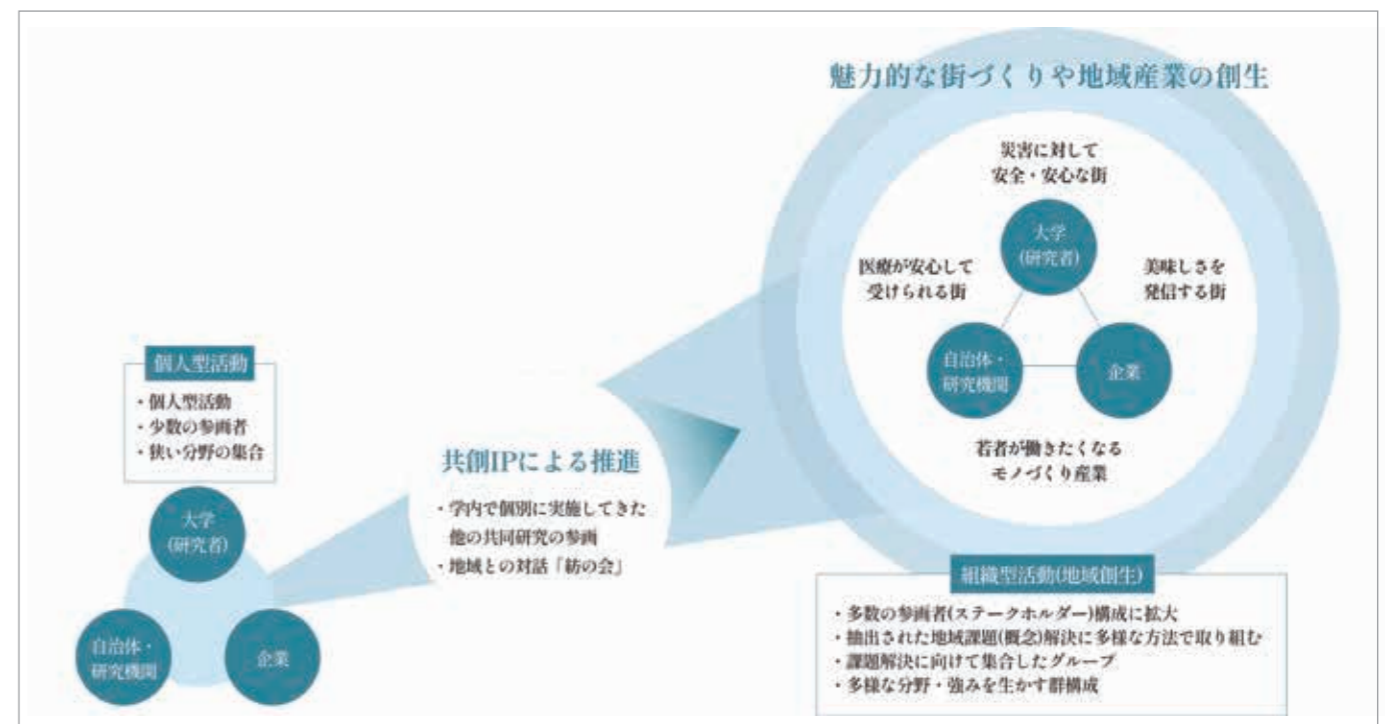
「特にフィールド科学や日本酒学は、単なる分野横断に留まりません。自然科学の視点だけでなく、人文社会科学系の知見も取り入れ、地域をトータルで捉える文理融合の場です。例えば日本酒学センターには全10学部から教員が参加しており、醸造の技術だけでなく、地域学、健康、産業といった多角的な視点で研究が進められています」(本田)



画像引用:新潟大学FLAGs Webサイト(https://www.niigata-u.ac.jp/flags-jp/)より

年後の2035年までに、博士後期課程の入学人数を現在の3倍にあたる600人規模に増加させることを目指している。調査の結果、新潟大学は規模の割に博士課程の学生数が少ないことが判明。これは裏を返せば、まだ十分に伸ばせるポテンシャルがあるということだ。増加させる博士のうち、約半分を学部からの進学生、3割を留学生、2割を社会人学生と想定し、特に学部からの進学生の数を増やすことに意欲的に取り組む。

「新潟大学が研究大学であり続けるためには、博士課程の学生が活き活きと活躍していることが絶対条件です。世界レベルの研究大学は、例外なく大学院生の比率が高いという特徴があります。私たちは、この事業を通じて大学のあり方そのものを変えていく覚悟です。自分の研究が社会実装される過程を目の当たりにすれば、学生のモチベーションは飛躍的に高まります。自治体や企業との連携の中で、自分の力がどう世の中に役立つのかを感じてほしい。新潟大学は、地方における『知の中核』としての責務を負っています。研究力の強化と社会実践、この両輪を回すことで、新潟大学をイノベーターが集う拠点にしていきたいと考えています」(末吉)



画像引用:新潟大学FLAGs Webサイト(https://www.niigata-u.ac.jp/flags-jp/)より

# Enjoy! 学生ライフ

新潟大学の学生は、勉学はもちろん部活やサークルなどの課外活動でも活躍しています。このページではそんな青春の1ページをお届けします。



↑メンバーは103名。週1回、総合教育研究棟F棟教室で活動している。毎回の参加人数は20名程度。

## 写真サークル FOCUS

初心者から愛好家まで！  
多様な仲間と企画や展示を形にする

「カメラ初心者から愛好家まで多様なメンバーが在籍し、参加も自由なサークルです。初心者が圧倒的に多いですが、長年カメラを扱ってきた人や機材に詳しいメンバーもいます」とサークル長の小木聖也さん。普段の活動では主に1~2年生が持ち回りで企画を担当し、カメラの紹介や屋外でのフォトウォークなどを行う。また、活動の成果をまとめた写真展を企画し、新入生歓迎写真展や新大祭、駅南

キャンパスときめいとなどで開催している。「企画や展示テーマをゼロから考え、仲間と意見を出し合って形にする過程で、実践的な企画力や主体性、協調性が養われると思います」。1人でも楽しめる写真を、あえてサークルのメンバーと共有し、互いの得手不得手をフォローし合いながら、展示運営や作品パネルなどを作り上げることで、他組織との関わり方を含めた精神的な成長が得られるという。

→ 普段の活動だけでなく、思い立ったらサークルの仲間と声をかけ、瓢湖などさまざまなフィールドに撮影に行くことも。



写真が好きな人を大募集中です!

サークル長 小木聖也さん (法学部2年)

## アルト・ヨアヒム助教

ALT Joachim

Profile 博士(国際文化学)。専門は日本学。研究テーマは「日本のアニメーション作品における第二次大戦」。2010年来日、2025年4月に新潟大学に着任。



## 『外国語文献講読Ⅱ』

メディア論(アニメ)のテキストで学ぶアカデミックリーディング

経済科学部学際日本学プログラムでは、社会科学と人文科学の垣根を超え、政治・経済から思想、アニメーションに至る日本社会と文化における幅広いテーマに取り組み。「外国語文献講読Ⅱ」は、同プログラムの2年次以上を対象とした授業。メディア論、主にアニメに関するア

カデミックリーディングを中心に学ぶ。英語で執筆された文献に触れることで、学生は作品分析と批判、学術的な仮説の読み解きなどの力を養う。講義はすべて英語で行われ、演習形式でメディア論の基礎的な知識と考え方を身につける。担当教員のアルト・ヨアヒム助教に聞いた。

意欲ある学生が伸び伸びと勉学に勤しむ

# 授業紹介

—教育の現場—

専門的な知識や技術の修得と、均整の取れた知識の獲得は教育の重要な役割。約5,000科目の中から特色ある授業を紹介。

## 経済科学部

### STUDENT'S VOICE



左:ヒョン・ユンハさん(経済科学部4年※)

右:有馬琴雪さん(経済科学部2年※)

「ジブリ映画を題材にしたテキストに興味を持ち、受講しました。日本文化圏の外からの視点に触れることで理解が深まり、よりグローバルな感覚で宮崎作品を捉えるきっかけになりました」(ヒョン)「全て英語で行われる講義は初めてで当初は緊張していましたが、大好きなアニメについて学び、ディスカッションを重ねることで自然と英語に向き合えるようになりました」(有馬) ※取材時

「授業では、自分の考えを英語で表現する力を重視します。授業中には質問やグループディスカッションを行い、当日扱った章のまとめを担当学生が英語で発表します。また、専門分野の研究書を正確に読解する手法を身につけるとともに、その内容を要約すること、自らの論文作成にも役立ててもらいます」

「メディア論の基礎知識や考え方を学びつつ、最終目標はクリティカル・シンキング(批評的思考)を身につけること。学生には勇気を持って積極的に発言してほしいと思っています」



取材日に用いられたテキストは、日本のアニメ監督・アニメーターの宮崎駿の研究書、スーザン・J・ネイピア著『Miyazakiworld: A Life in Art』(邦題:『ミヤザキワールド—宮崎駿の闇と光—』)。映画『千と千尋の神隠し』を題材に、「なぜ日本の子どもたちは外で遊ばなくなったのか」というテーマで討論が行われた。また、映画『耳をすませば』で『カントリー・ロード』が日本語訳される描写の背景として、同曲が海外で人気であることなども解説された。

## ときめく「知」の交流。

「ときめいと」は、地域社会への知的貢献を担う目的で設置された新潟大学のサテライトキャンパスです。施設は、大小の講義室やミーティングルームのほか、展示イベント等にも使用できる多目的スペースを備えています。新潟駅直結のPLAKA1内に位置しており、アクセスの良さも特徴のひとつです。新潟大学に関する情報も多数取り揃えています。どうぞ気軽にご利用ください。

詳細はこちら



お問い合わせ 新潟大学駅南キャンパスときめいと

Web サイト: <https://www.niigata-u.ac.jp/university/facility/tokimate/>  
〒950-0911 新潟市中央区笹口1丁目1番地 プラカ1 2階  
Tel: 025-248-8144 Fax: 025-248-8144 E-mail: tokimate@adm.niigata-u.ac.jp

—小児医療宿泊施設—

## ドナルド・マクドナルド・ハウス にいがた

病気と闘う子どもと、その家族が一緒にいられますように。

ハウスの運営は100%皆様のご寄附で支えられています。温かいご支援をよろしくお願いいたします。

詳細はこちら



URL: <https://donation.niigata-u.ac.jp/>

お問い合わせ: サポーター連携推進室 TEL: 025-262-6010 E-mail: kikinjimu@adm.niigata-u.ac.jp

# 新潟大学の特色ある研究トピックを紹介 注目される 研究報告

新潟大学では、伝統的な学問分野を継承するとともに、専門分野を超えて連携し合う研究や、先端的な研究など、真理探究や社会の発展に貢献する研究を行っています。

研究  
題目

## 地域食材に着目した研究 -健康機能性の解明とおいしさの数値化を目指して-

おいしさから健康へ  
新潟の食の可能性を探る



教育学部 / 農学部  
山口智子 教授

Profile | 博士(学術)。専門は調理科学と食生活学。2026年1月に設置された全学共同教育研究組織、フード&ヘルスイノベーション共創センターの副センター長と地域協働研究部門長を兼任。

食品科学や食品機能学的な解析を行い、調理によるおいしさや栄養成分の変化を分析、科学的エビデンスに基づき、食生活や健康へアプローチする山口智子教授。地域食材に着目し、地域や企業との共同研究や商品開発に幅広く携わるなど、新潟大学が進めるおいしさDXの取組の中核を担う存在だ。

「調理科学や食生活学は、私たちの日々の暮らしに直結する分野。農学系の基礎研究に“食する”という実生活の視点を加えることを意識しています。食品には栄養、おいしさ(嗜好性)、健康や疾病予防(体調調節)の3つの機能があります。地域に根ざしながらこれらを掛け合わせて新潟の食の魅力と可能性を広げていきたいです」

2008年の新潟大学着任以降は、コメや米粉、女池菜、ナス、枝豆、南蛮エビ(甘エビ)など、地域食材に着目し幅広く研究を進めてきた。ピペットを用いた科学的な成分分析に加え、人間の舌を模した人工脂質膜を用いた味覚センサーでおいしさを数値・可視化。社会実装も重視し、データに基づいた最適な調理法や新しい食べ方、商品開発へとつなげていく。

新潟市西区・西蒲区で栽培される

ブランドサツマイモ「いもジェンヌ」の焼きいもペーストを使用した日本酒リキュール『うたたね いもジェンヌ』は、新潟大学大学院いもジェンヌプロジェクトと新潟市西区の高野酒造との共同開発の成果だ。地域農業や観光振興への波及効果も期待されている。

「地域食材や企業とのコラボレーション商品自体は珍しくありませんが、研究をベースにそれらのおいしさを数値化できる点が私たちの研究の強み。おいしさを求めつつ、その上で健康に繋げ、食品の価値を高めていくことが重要です。QOL(クオリティ・オブ・ライフ)向上に直接的に貢献できる研究だと考えています」



↑近年の研究成果や教育活動から生まれた商品。いもジェンヌ日本酒リキュール「うたたね いもジェンヌ」(左)と新潟県産高アミロース米「低糖質ごはん米」(右)。炊飯方法の調整によってコンヒカリと同等の食感で低糖質のご飯が炊きあがる

研究  
題目

## 魚類の社会的知性の基盤と神経基盤の解明： 生態との関連性から探る魚類の高次認知

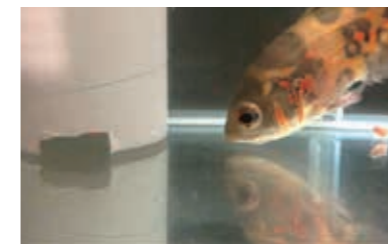
水圏動物の賢さと進化要因を解明し  
ヒトが持っている生き物に対する概念を変える

動物の「賢さ」は、ヒトを含めた陸上脊椎動物固有のものと考え、「魚類」と「知性」はリンクしづらいというイメージがある。しかし近年、それを覆すような、水圏動物の高次認知能力が次々に発見されている。高橋宏司准教授は、行動生態学や比較認知科学など複数の分野を融合した認知進化生態学の領域から、水圏動物の賢さを探る研究を進める。

「ヒトの賢さは、複雑な社会環境に適応するために脳が発達し進化したという考えがあります。『社会的知性仮説』と呼ばれる説ですが、社会を形成し個体間で結びつきながら生活することは、水の世界でも存在するため、水圏動物にもそれに伴う賢さや知的行動が備わっている可能性が十分に考えられます。私は魚類を対象とした社会・知性・脳領域に着目し、魚の中に認知というものを見出す研

究に取り組んでいます」  
魚類の生態を踏まえた手法によって様々な実験を展開。隠れた餌に対する魚の執着行動から着想を得て、魚は計算ができるかといった検証を行った。「捕食性魚類のオスカーを用いて、目の前の餌を一度見えなくし、再び出現させた餌を食べた場合、もう餌は無いと理解してその場から立ち去るか、餌を複数にした際はどのような行動をとるかを検証しています。また、飼育条件を変えた場合や群れる魚を利用したアプローチなど、より踏み込んだ形も視野に入れています。今後も実験や検証を重ねていき、魚の高次認知能力を明らかにすると同時に、動物全般の賢さを見つめ直していければと考えています」

ほかにも高橋准教授は「魚の釣りに対する認知」の実験や「社会的欲求が魚に存在するか」など数多くの研究を並行して行い、あらゆる角度から魚の賢さ、さらには心についての解明を目指す。「動物の賢さを理解し、複雑な社会を維持する知性の源流を探る認知進化生態学は、行動生態学をはじめ多くの領域への貢献が期待できるため、これからも多角的に研究を継続し



↑オスカーを使った実験の様子。隠れ家に逃げこんだ餌を「理解」できれば、魚の計算能力を調べられるかもしれない



創生学部  
高橋宏司 准教授

Profile | 博士(農学)。専門は魚類心理学。魚類を中心とした水圏動物の心理・認知について研究。行動生態学や水産学など、さまざまな角度からアプローチを進める。著書に「ヒト心あれば魚心―釣られた魚は忘れない―」。

ていく予定です。その上で私自身は、心にフォーカスをあてた研究に注力しています。実験で魚たちはヒトに似た行動や振る舞いをするのがしばしばあります。そういったヒトらしさのような側面から知的行動のメカニズムや新しい心理の法則を解き明かし、その知見を医療や遺伝子分野、AI分野の発展にもつなげていきたいです」

## 特別なあなたに 特別な1枚 「新潟大学カード」

新潟大学全学同窓会では、三菱UFJニコスと提携して、ゴールドプレステージの「新潟大学カード」を発行しています。多くの特典を享受できるとともに、新潟大学の支援にもつながります。入会のお問い合わせは全学同窓会まで。

特典 年会費無料 海外・国内旅行傷害保険付き(最高3,000万円) 国内主要空港のラウンジが無料



## 入会受付中!

新潟大学カードに関するお問い合わせ先

新潟大学全学同窓会事務局  
電話：025-262-7891  
(受付時間 平日 10:00~15:00)  
E-mail: n-doso@adm.niigata-u.ac.jp

新潟大学キャリア・就職支援オフィス

## CAN システム

卒業生と新潟大学生をつなぐ、キャリア形成サポートの新しいカタチ！  
卒業生と学生をつなぐ CAN システム

CAN システムとは Web 上のシステムを介して、  
学生の就職活動やキャリア形成をサポートしていただくシステムです。  
社会の先輩として学生たちの悩みや不安にアドバイスをお聞かせください！

卒業生の皆様のご登録をお待ちしています！

お問い合わせ先 新潟大学キャリア・就職支援オフィス TEL:025-262-6087 FAX:025-262-7579 E-mail:shushoku@adm.niigata-u.ac.jp

URL <https://www.career-center.niigata-u.ac.jp/>

# ”活躍する卒業生紹介” 学びの先“

新潟大学で「真の強さ」を学び、  
社会に羽ばたいた16万人を超える卒業生。  
社会で活躍する卒業生をご紹介します。

いわずいらず けんいちろう  
■ 合同会社ひなた代表 岩切健一郎さん



2025年、ダイヤモンド社より「発達障害かもだけど、お金のことちゃんとした人の本」を出版。お金に関する失敗を繰り返してきた自身の経験をふまえ、「同じ思いをしている人の役に立ちたい」という思いをこめた。

**Profile.**  
1972年宮城県宮崎市生まれ。新潟大学人文学部卒業。コンサルティング会社から外資系保険会社の営業職を経て、2020年に合同会社ひなた設立。発達障害のある人やその家族に特化したファイナンシャルプランナーとして全国で活動している。

## 当事者だからできる。発達障害専門 お金の相談窓口

現在、発達障害専門の保険・家計相談を行う合同会社ひなたの代表として活躍する岩切健一郎さん。2009年に新潟大学を卒業した後は東京のコンサルティング会社や外資系保険会社でキャリアを積んだ。その原動力となっていたのは、小学生の頃に家族が倒産し、経済的な苦勞を経験した過去だった。「お金がないことは家族や子どもの人生にまで影響を及ぼします。会社を倒産させない、家族を困ら

### 「発達障害のある人や家族の不安を理解。適切なソリューションを提案する」

せないという強いモチベーションで、営業成績全国1位になるまで走り続けました」

大きな転機は2020年のコロナ禍。対面営業ができなくなる中で、自身のADHD(多動性症候群)の診断を公表し、同じ悩みを持つ人たちのための専門窓口を立ち上げた。「発達障害があるというだけで保険の加入を断られたり、窓口で差別的な対応をされたりする現状があります。当事者である

せながら、打たれることがありません。しかし実際には20億人ほどの人に静かに感染しています。感染者が弱っていくと、何故か増え始め、病気を起こして飛び出し、次の人に移っていきます。まるで見切っているようです。こんなことは天然痘ウイルスにはできませんでした。感染するとほとんど病気を起こして目立ち、結局ワクチンも加わって打たれました。一方でSARS-CoV-2は、少し潜伏できます。HIVはもっと長く潜伏できます。だからかなり厄介です。

私なら、ファイナンシャルプランナーとしてそうした方々の不安を理解し、適切なソリューションを提案できると考えました。専門に特化することのリスクもありましたが、中途半端にやるよりは振り切ろうと決意しました」

現在は、年間120世帯ほどの相談を対面やオンラインで受け、保険だけでなく家計管理や将来設計も伴走型でサポートしている。そんな岩切さんが学生時代に最も情熱を注いだのは、市民参加型の祭り「にいがた総おどり」の活動だったという。「にいがた総おどり」に本気で取り組む先輩や大人たちの姿勢を学べた経験は大きかったと思います。会場のレイアウトをイチから考えたり、演出道具を試行錯誤して作ったりした経験は、私の人生に大きな刺激を与えてくれました」

このような人とのつながりの中での経験は、人文学部で社会学を専攻する中

で研究した「社会関係資本」という概念にも通じる。「現在の活動の中でも、発達障害の子を持つ親の会や当事者会、インターネット上での誰かとのつながりを持つことが当事者にとって非常に大きな資産になっている」ということを実感しています」

最近、行政や企業での講演、さらにはウェブや出版物を通して発達障害の正しい知識を広める活動にも力を入れている。「日本にはまだまだこの分野のビジネスモデルが確立されていません。海外の事例を調査しながら、より多くの困っている人に届くサービスを作っていきたい。真面目にやっていたら、思いは強く広く伝わると信じています」と、新潟を拠点に全国を見据えた熱いビジョンを語ってくれた。

**Information**

■ 合同会社ひなた 公式ウェブサイト  
URL: <https://hinata-hoken.com/>

## COLUMN ◆ 新潟大学教員によるコラム “知見と生活のあいだ”

本学教員がそれぞれの専門領域と日常の接点を題材に、日々の生活に通じる理論やアイデアを綴るリレー式コラム。第37回は医学部医学科です。

### 第37回 ● 医学部医学科 「最も人命を奪ってきた・いる『結核菌』のこと」



**休眠した結核菌**  
酸素が増殖に必要な結核菌は、低酸素下で休眠します(図)。生体では細胞内や、免疫細胞の集積で低酸素や低栄養環境が生じ休眠が誘導されます。休眠した菌の表面は、つるつると元気な様ですが、増殖はしないので、分裂痕は無くなっています(図)。

**人** 類史上、結核は最多の人命を奪ってきました。10億人という途方もない数の人がこれまでに犠牲になりました。結核菌に感染していなければ、生を全う出来たのにと、呆然となります。現在はどのようにでしょうか。COVID-19のパンデミックは世界を揺るがしましたが、WHOの最新の報告では、結核による死亡者数はCOVID-19&AIDSのそれを上回っています。COVID-19のパンデミックは終息しましたが、結核のパンデミックは続いているとも言えます。ちなみに結核菌の次に人を多く殺したのは天然痘ウイルスです。しかし天然痘は、ソマリアでの最後の患者発生をもって制圧されました。結核カリエスはエジプトのミイラにも認められます。結核の問題はなぜ、これほど長く続いているのでしょうか。

大きな理由の一つに「ゆっくりとした生き方」、それに因む「しぶとさ」が在ります。人間社会では「出る杭は打たれる」と言いますが、結核菌はゆっくりして、日頃はほとんど目立ちません。休眠した結核菌は、低酸素下で休眠します(図)。生体では細胞内や、免疫細胞の集積で低酸素や低栄養環境が生じ休眠が誘導されます。休眠した菌の表面は、つるつると元気な様ですが、増殖はしないので、分裂痕は無くなっています(図)。

せんから、打たれることがありません。しかし実際には20億人ほどの人に静かに感染しています。感染者が弱っていくと、何故か増え始め、病気を起こして飛び出し、次の人に移っていきます。まるで見切っているようです。こんなことは天然痘ウイルスにはできませんでした。感染するとほとんど病気を起こして目立ち、結局ワクチンも加わって打たれました。一方でSARS-CoV-2は、少し潜伏できます。HIVはもっと長く潜伏できます。だからかなり厄介です。

でもなぜ多くの感染者は、結核を発症しないのでしょうか。それは結核菌が増殖を止めて眠っているからです。これを「休眠」(Dormancy)と呼びます。植物の種を連想すればよいでしょう。新潟県十日町市では夏に、2千年前の地層から見つかった種から育った、見事な蓮の花を観ることが出来ます。結核菌もそれに負けず、しぶとく生き続けることができます。眠ると薬剤が阻害する代謝が止まるので、薬も効きづらくなります。発症に伴い増殖しても結核菌は頻りに眠ります。ですから今でも結核の治療は半年もかかります。インフルエンザに罹患してタミフルを2週間飲むとは大違いです。

この休眠現象は、よく考えようと不思議です。なぜなら、殆どの細胞は、増殖を止めると老化して次第に死んでいくからです。一方で休眠した結核菌は死ににくい。なぜ生き続けられるのかを皆が知りたいと思っています。私達の一つの研究成果として、結核菌のある蛋白質が、単独で休眠を誘導できる

ことを見つけました。そのメカニズムを西山晃史先生(大学院医歯保健学研究科細菌学分野講師)達が解析してみると、驚くほど単純な、しかし新規の興味深いものでした。DNAをハエ取り紙のように、からめとり凝集させて生命現象を止めることが分かりました。「休眠」の仕組みをしっかりと理解し、それを阻止する方法を考案して、結核を早く、確実に、制圧できないかと私達は考えています。

一方で休眠の仕組みが分かれば、人の長寿のヒントにもなると思われれます。実際に、人の長寿研究の成果と結核の休眠の仕組みは、多くの共通点があります。「ゆっくり」もその一つです。ゆっくり増える生き物は、人を含め寿命が長いことが分かっています。結核菌の「ゆっくり」は、病原体を長く生かす、研究者にとっても成果が出るのが遅れ悩みの種ですが、「病原体の王者」ともいえる結核菌、王者を倒す必要がありますし、王者から学ぶことも沢山あります。

**松本壮吉**  
大学院医歯保健学研究科教授

長崎県出身。博士(医学)、(歯学)。専門は結核・抗酸菌症・難病の制圧研究。細菌の休眠現象から長生きを探る研究。大阪公立大学、アイルランガ大学、北海道大学客員教授。日米医学協力計画・抗酸菌症部会長。

**75th Anniversary**  
KIIGATA UNIVERSITY 1978-2024  
新たな挑戦 大きな貢献

## 創立 75 周年記念募金

次世代の人材育成と科学の発展に寄与し、  
社会に貢献する 新潟大学

卒業生の皆様をはじめ、多くの皆様のご理解とご支援を賜りますようお願い申し上げます。

詳細はこちら

<https://www.niigata-u.ac.jp/75th/>

お問い合わせ：サポーター連携推進室 TEL：025-262-5651 E-mail：kikinjimu@adm.niigata-u.ac.jp

## 新潟大学ネーミングライツ事業パートナー募集中

新潟大学では、施設等の有効活用及び教育研究環境を強化することにより、本学の価値を向上させることを目的としたネーミングライツ事業の実施にご賛同いただける事業者等を募集しています。

詳細はこちら

[https://www.niigata-u.ac.jp/university/about\\_nr/](https://www.niigata-u.ac.jp/university/about_nr/)

お問い合わせ：サポーター連携推進室 TEL：025-262-6010 E-mail：kikinjimu@adm.niigata-u.ac.jp

■ドナルド・マクドナルド・ハウスにいがた支援募金へのご寄附

茨曾根小学校のみなさんからの寄附金贈呈式を行いました。

3月6日(金)、ドナルド・マクドナルド・ハウス にいがたにおいて、新潟市立茨曾根小学校5年生から寄附金目録の受贈式を行いました。

茨曾根小学校5年生13名は、地元のコメづくりについて理解を深める学習の一環として、地域の方々の協力を得ながら田植えや稲刈りに取り組み、収穫したコメを「茨星(いばらぼし)」と名付けて販売しました。この売上金10万円を、「ドナルド・マクドナルド・ハウス にいがた」の運営のために寄附いただきました。

受贈式では、菊地利明 医歯学総合病院長が児童たちの主体的な学びと活動を称え、寄附金は同ハウスの運営に大切に活用していく旨を述べました。式典後には、児童たちが田村サブハウスマネージャーの案内で施設内を見学し、「居心地がよさそう」「きれい」などの感想が聞かれ、温かな雰囲気の中で見学が行われました。



■新潟大学基金のウェブサイトリニューアル

新潟大学の寄附サイトが、生まれ変わりました。

新潟大学基金ウェブサイトが、より見やすく、使いやすく生まれ変わりました。

新しいサイトでは、寄附メニューの紹介や活動報告、寄附者の皆さまへの感謝の取り組みを、より分かりやすくお伝えしています。

また、大学公式ドメイン「donation.niigata-u.ac.jp」として信頼性を高め、安心してご利用いただける寄附サイトへと刷新しました。

これからも皆さまとともに、新潟大学の未来づくりを進めてまいります。



— 学生の輝く未来を共に創る — 基金関係のお知らせ

地域の中核を担い国際社会で活躍する人材を輩出するため、「学生の修学支援」「国際交流」「教育施設整備」の推進を目指しています。

新潟大学まなび応援基金

■目的 経済的理由により修学が困難な学生及び障がいのある学生に対して、修学支援事業を行います。

「輝け未来!!新潟大学入学応援奨学金」「新潟大学大学院博士課程奨学金」「新潟大学修学応援特別奨学金」の支援により、修学・学生生活支援及び経済支援を行っております。

■寄附者名簿 (R7.11~R8.2寄附入金分)※(50音順 敬称略)

〈個人〉青木 あづさ 新井 裕哉 石田 武裕 近藤 武彦 大貫 俊二 佐藤 純一 佐藤 壽則 志澤 喜久 星 祥彦 盛崎 眞治 吉田 滋 渡部 厚史  
 〈団体〉税理士法人小川会計 匿名希望15名

～優秀な大学院生の研究を応援～ 新潟大学研究等支援基金

■目的 学生等又は不安定な雇用状態にある研究者への研究等を支援する事業を行います。

「未来社会を牽引するグローバルな総合知を備えたフロントランナー育成プロジェクト」により、大学院生の研究費支援を行っております。

■寄附者名簿 (R7.11~R8.2寄附入金分)※(50音順 敬称略)

〈個人〉肥田 和浩 山崎 秀 匿名希望4名  
 〈団体〉久保誠電気興業株式会社

新潟大学基金

■目的 新潟大学の基盤整備、企業や地域社会との連携、教育・研究活動支援、国際交流活動支援、学生のための厚生施設整備などを推進する事業を行います。

■寄附者名簿 (R7.11~R8.2寄附入金分)※(50音順 敬称略)

〈個人〉浅見 恵子 安澤 直樹 五十嵐 整 池田 大祐 石田 武裕 石山 壘 伊藤 良樹 今成 卓而 上杉 圭吾  
 牛木 辰男 内山 政二 大嶋 泉 大嶋 美香 太田 隆 大桃 祐介 岡村 光展 小田 陽平 梶原 謙一  
 片平 邦昭 門脇 康之 金子 淳一 上村 顕也 上村 勇太 川原 明彦 君川 瑞葉 木村 聡 黒澤 昌基  
 坂井 靖子 坂口 愛実 相良 駿太 佐京 健治 佐久間 雅義 佐々木 晋 佐藤 純一 佐藤 壽則 佐藤 正道  
 鈴木 高志 高橋 智 高橋 麻里 滝澤 哲也 土田 葉子 堂前 洋一郎 外山 久泰 中田 克 西山 純一  
 長谷川 直美 濱田 一成 平石 志保 平田 稔 廣川 ミエ 廣田 巨樹 前沢 政次 宮越 勝久 村山 政文  
 目良 恒 森 勇造 矢部 達哉 山崎 木実 山崎 秀 山田 修 横野 知江 横山 綾美 吉田 滋  
 吉野 文浩 米川 宏一 渡邊 景亮 渡邊 さとみ 渡部 厚史 匿名希望94名

〈団体〉あがの市民病院売店 株式会社Alumnote 株式会社ウィザップ 越後製菓株式会社 越後吉田ライオンズクラブ 一般財団法人協和会  
 株式会社コーシン 一般財団法人笹村工学奨励会 サトウ食品株式会社 サントリービバレッジソリューション株式会社  
 JA新潟厚生連柏崎総合医療センター売店 JA新潟厚生連けいなん総合病院 JA新潟厚生連上越総合病院 JA新潟厚生連 新潟医療センター  
 胎内電建工業株式会社 株式会社富山 株式会社新潟アグリプランニング 新潟医療生活協同組合木戸病院 新潟県福祉保健部健康づくり支援課成人保健係  
 新潟県立新潟高等学校 新潟大学生協同組合 新潟大学全学同窓会 株式会社ネクスコ・エンジニアリング新潟 ピアノ教室リエート  
 有限会社星山米店 医療法人社団IUVO山崎歯科医院 株式会社和光ペンディング 匿名希望6団体

新潟大学サポーター倶楽部

■目的 継続して新潟大学を支援するため、倶楽部年会費の全額を「新潟大学基金」に寄附します。

また、会員様へ本学の情報発信を行い、新潟大学と会員及び地域社会との連携と発展を目指します。  
<https://www.niigata-u.ac.jp/university/donation/supporters/>

【R7.11~R8.2 新規入会会員のご紹介】※(50音順 敬称略)

〈団体〉オーエムネットワーク株式会社 株式会社広報えん ダイニチ工業株式会社

会員名簿はこちら



URL: <https://donation.niigata-u.ac.jp/wp-content/uploads/2026/05/supporterclub2026.5.pdf>

トピックス

■新潟大学サポーター倶楽部報告会・情報交換会を開催

10回目の節目に五十嵐キャンパスで開催しました。

「令和7年度新潟大学サポーター倶楽部報告会・情報交換会」を、12月2日に五十嵐キャンパス中央図書館OMNライブラリーホールおよび生協第三食堂において開催し、サポーター倶楽部会員、学生、大学関係者の計153名が参加しました。これは毎年、倶楽部会員の皆様より支援を受けた学生が謝意を伝え、特色ある活動を紹介する場として同会を開催しており、今年で10回目となります。

報告会では、牛木辰男学長より新潟大学の取り組みをはじめ、学生への支援事業報告を中心に説明がありました。その後、倶楽部会員からの支援による奨学金受給者等のうち代表学生4名が登壇し、ご支援に対する感謝の言葉とともに、研究活動や課外活動、大学生活の様子、将来の夢などについて発表がありました。

報告会終了後は、五十嵐キャンパス内の施設を紹介するキャンパスツアーを実施しました。図書館や学生寮、課外活動施設を実際にご覧いただき、本学の取り組みについて理解を深めていただく機会となりました。

その後、生協第三食堂に移動し、テーブルごとに倶楽部会員と学生が意見交換を行いました。

会員からは「学生の考えや価値観を直接聞くことができ、参考になった」などの声が寄せられ、学生からは「支援してくださっている企業の方々へ直接お礼を伝えられたことが良かった」など、有意義な交流の場となりました。

新潟大学では、今後もサポーター倶楽部の輪を広げ、「学生の修学支援」「国際交流」「教育施設整備」を推進してまいります。



卒業生の皆様へ

こんなカードがほしかった  
**新潟大学カード**

はじめてみませんか。  
 新潟大学カードからひろがる未来

新潟大学カードご利用でおトクがたくさん

本人会員・家族会員  
**年会費永年無料**

ETCカードも無料で発行



会員募集中!

国内・海外旅行傷害保険(最高3,000万円)  
 ショッピング保険(年間補償限度額200万円)

安心の各種保険を無料で付帯しています。  
 国内旅行は航空券や乗車券、宿泊料金などの利用代金を  
 事前に新潟大学カードでお支払いいただくことが条件です。

空港ラウンジサービス

国内主要空港とダニエル・K・イノウエ国際空港  
 (ホルル)のラウンジを無料でご利用いただけます。  
 本人会員・家族会員は無料。  
 会員以外の同伴者は有料でのご利用となります。

MUFG CARD  
**GLOBAL POINT+**



グローバルポイントは、提携先のポイントに移行できます。  
 Pontaポイント、楽天ポイント、nanacoポイント、dポイントなど。

新潟大学カードご利用による収益金は、新潟大学と学生の支援に充てられます。



入会お問合せ・入会申込書請求先

新潟大学全学同窓会

〒950-2181 新潟市西区五十嵐2の町8050番地 <https://www.niigata-u-dousou.jp/>  
 E-Mail: [n-doso@adm.niigata-u.ac.jp](mailto:n-doso@adm.niigata-u.ac.jp) TEL: 025-262-7891 FAX: 025-262-7892  
 ※新潟大学カード入会申込書のご請求はメールでどうぞ。 10:00~15:00(土・日・祝日を除く)

あたたかいご支援、ご協力を賜り、心より感謝申し上げます。  
 「興味がある」「詳しく知りたい」「寄附したい」とお考えの皆様へ

詳しい資料をお送りいたしますので、お問合せ先までご連絡願います。新潟大学ホームページでも詳細をご覧ください。

お問合せ先 **新潟大学サポーター連携推進室** TEL 025-262-5651・6010・6356 E-mail [kikinjimu@adm.niigata-u.ac.jp](mailto:kikinjimu@adm.niigata-u.ac.jp)  
 HP <https://www.niigata-u.ac.jp/university/donation/>

# Campus Information

地域に密着しながら様々な活動が続ける新潟大学。皆さんにお伝えしたいニュースはたくさんあります。

## “脳といのち”のイノベーション ハブ(BIH)設立記念シンポジウム・ 開所式を開催しました

本学では、文部科学省令和4年度第2次補正予算「地域中核・特色ある研究大学の連携による産学官連携・共同研究の施設整備事業」の支援を受け、「脳といのち」のイノベーションハブ(BIH)」を令和7年8月に設立いたしました。本施設は、J-PEAKS事業における重点分野“脳といのち”領域をはじめ、ヘルス・ライフサイエンス分野のオープンイノベーション拠点として整備されています。このたびBIH設立を記念し、「地域から世界へー産学官で創るヘルス・ライフイノベーションー」をテーマに、令和7年12月18日(木)に設立記念シンポジウム・開所式を開催いたしました。

本施設は、令和8年1階ライフイノベーション推進室、コワーキングスペース、2階レンタルラボが配置され、3～4階には4月に新設された全学共同教育研究組織である「ひと脳研究資源イニシアチブ推進センター(ChBRI：通称シブリ)」が配置され、本格始動となりました。

BIHでは、世界最大級の規模かつ高品質で知られる「ひとブレインバンク」の高度化と活用促進を中核として、脳機能の詳細な解明を進めるとともに、神経疾患の予防・早期診断・革新的治療法の開発を目指し、医療や福祉など幅広い領域での社会実装を図ります。



URL: <https://www.niigata-u.ac.jp/j-peaks/news/1012687/>



河合純一スポーツ庁長官(中央)と学生たち

## 本学学生グループが スポーツ庁「スポーツ・健康まちづくり デザイン学生コンペティション2025」で スポーツ庁長官賞を受賞しました

本学の学生のグループが、スポーツ庁が主催する「スポーツ・健康まちづくりデザイン 学生コンペティション2025」で、スポーツ庁長官賞を受賞しました。

同コンペティションは、「まち全体でスポーツに親しめる『場』づくり」をテーマとし、対象地や地域を決め(大学のキャンパス等も可)、まちが、運動・スポーツに親しみやすい「場」となるようなアイデアやデザインの提案を募集するもので、「アイデア部門」と「デザイン部門」合わせて48件の応募があったものです。

1ヶ月以上の期間をかけて練られた提案のタイトルは「廃線路で編み直す日常と健康」。新潟市西区の新潟交通電車線跡地(1999年廃線)を、スポーツを楽しみながら人が集まり、交流する場へと転換する都市デザインを提案しました。12月16日にLumine 0(東京都)で行われた二次審査で、6大学がプレゼンテーションを行い、見事スポーツ庁長官賞受賞となりました。



URL: <https://www.niigata-u.ac.jp/campus/shindaisei/2026/1022211/>

## フード&ヘルスイノベーション共創センターのwebサイトを公開しました

本学では、研究活動の重点領域である食と健康領域における研究・教育・社会共創の中核組織として、国際水準での先端的な研究と、地域産業創生の駆動力となる研究及び人材育成を推進することを目的として、2026年1月に新たに「フード&ヘルスイノベーション共創センター」を設置しました。同センターのwebサイトも公開しましたのでぜひご覧ください。



URL: <https://www.fhi.niigata-u.ac.jp/>



新潟大学  
季刊広報誌



RIKKA 2026.SPRING No.56

発行/2026(令和8)年5月  
編集/新潟大学広報室  
(新潟市西区五十嵐2の町8050番地)  
電話/025-262-7000

Home Page

<https://www.niigata-u.ac.jp/>

E-mail

[rikka@adm.niigata-u.ac.jp](mailto:rikka@adm.niigata-u.ac.jp)



定期送付のお知らせ

季刊誌「六花」は卒業生の皆様に無料で定期送付させていただきます。ご希望の方は、広報室までご連絡ください。

リサイクル適性  
この印刷物は、印刷用の紙で  
リサイクルできます。